

6章 ディスカッション

1年 組 番 氏名

今回の授業の位置づけ

○探究活動（課題設定→情報収集→分析と整理→まとめ・表現）のいかなる場面においても、仲間との話し合い（ディスカッション）は欠かせない。他者の考えを傾聴して受け入れ、自分の考えを明確に表現する。論理性を追求しながらも感情的にならず、和やかな雰囲気を保つことも大切だ。この授業では、**バズセッション**を実際に行うことを通じて、ディスカッションの基本的姿勢を学ぶ。

ねらい

- ディスカッションの主な形態と特徴を理解する。
- ディスカッションのポイントと対話の重要性を認識する。
- バズセッションの実践を通じて、意見を出し合う中でさらに新しい考えを引き出す。

準備

- 6人のグループを作る。
- グループの中の進行役を決める。

【1 さまざまなディスカッションと意義について 動画を視聴】

1 さまざまなディスカッションと意義

主なディスカッションの形態には、バズセッション、パネルディスカッション、シンポジウム、ディベートなどがある。それぞれの形態や特徴について簡単にまとめると、下記ようになる。

それぞれの形態や特徴をふまえて、ディスカッションで大切なことを考えよう。

(1) 主な形態と特徴

① バズセッション

- 少人数のグループで話し合い、その結果をもとに全体で討論する。
- いろいろな意見やアイデアを引き出したいが、多くの人がいる場では、なかなかそれが出しにくい時にふさわしい方法。

② パネルディスカッション

- それぞれの立場の代表者（パネリスト）が、全体の前で議論を交わし、その後、聞き手（フロア）も参加して意見を述べ合う。
- 論題について三つ以上の異なる意見がある時、それぞれの立場の相違点を考えたり、多人数の中で考えを深めたりしたい時にふさわしい方法。

③ シンポジウム

- 複数の専門家が異なる立場や角度からの講演や報告を行い、それぞれ意見を述べ、その後、聞き手や司会者の質問に応答する。
- 論題について、異なった立場や角度から検討を深めるのにふさわしい方法。

④ ディベート

- 論題について、肯定側と否定側とに分かれて意見を述べ合う。
- 論題について、賛成や反対など、二つの対立した考えがある時、立場の違いや論点をはっきりさせるのにふさわしい方法。

(2) ディスカッションの意義

① ディスカッションのポイント

ディスカッション能力においても、人の気持ちに配慮した発言ができる日本的な風土は、議論に向いていないどころか、むしろ雰囲気を良好に保つためには有効であると感じる。感情的な対立を生むことなく、多様な意見を交わすことができれば、より生産的な対話をすることができる。もちろん遠慮しすぎていては、議論は進まない。相手の考えをしっかりと理解した上で、質問をし、コメントをしていく。質問力やコメント力をつねに意識することで、場を活性化させることができる。対話の雰囲気を友好的にし、しかもクリエイティブにすることは、それほど難しいことではない。

基本となるのは、自分の意見を声高に述べることよりも、むしろ**理解力**である。相手の意図を察知し、感情を読み取る。そうした上で、**考えを深める角度のついた質問やコメント**を投げかけ、複数の視点をお互いに提示しあうことで、よりリアリティのある問題解決につながっていく。手元に紙を用意し、相手の意見の重要な事柄をメモする習慣をつける。そして、質問したいことをメモし、コメントを紙に書きつけ、用意しておく。紙にメモを書きつけながらも、できるだけ視線は話している人に向け、身体全体で反応するようにする。胸を発表者の方に向け、身体全体で聞く。相手の話を面白そうに身体全体で聞く。これが聞く構えの基本である。

論理をつかむだけではなく、**相手の感情をつかむ**ことが真の対話法である。身体全体を聞く構えにセットし、リアクションを大きくする。相手の話の中のキーワードを相槌を打つように繰り返し、共感を示すように聞く。こうして寄り添うように聞いてもらうと、発表者はリラックスできる。**お互いに意見を聞き、その上で異なる考えを受け入れながら思考を深めていく**。これが協働的な学習の基本となる。

聞く構えにせよ、積極的に発表する構えにせよ、基礎となるのは身体である。身体が他者に対して開かれていることで、場は活性化する。国際的なコミュニケーションが求められる現代では、とりわけ身体がオープンであることが求められている。軽く体を揺さぶり深く呼吸することで、相手に体を開くことができる。

② 対話の重要性

ビジネスの場面に限らず、スポーツや音楽その他の複雑な連携が求められる場面では、チーム学習

がポイントとなる。チーム学習の訓練としては、対話（ダイアログ）と議論（ディスカッション）が重要であり、対話では一人の人間の理解を超えることが目指される。

自分の考えに固執する態度ではなく、対話しながら「気づき」を得ていくのが対話である。これは古代ギリシャのソクラテスの対話法の本質でもある。お互いの確信をぶつけあい闘争するのではなく、対話の中で、何がわかっていて、何がわからないのかをはっきりさせていく。これは相互協働作業である。自分がわかっていなかったことがわかったのだとすれば、それは対話している二人の勝利である。全参加者がお互いを仲間と考え、新しい気づきを喜ぶようにする。相手に議論で勝つことが目的なのではなく、お互いの間に新しい意味が生まれるようなクリエイティブな関係を目指す。これが対話である。

こうした対話的な関係性を練習して修得し、技としていくこと、これが真に「新しい学力」として求められるべき力といえるのではないか。まず二人の間で生産的な対話ができるようしっかりと練習し、グループ・ディスカッションになったときも新しい対話を生むのだという姿勢で全員が臨む。私たちはつい自分の価値観にこだわり自分の意見に固執しがちであるが、他者の意見を虚心坦懐に聞き入れ、よりよい意見やアイデアに向かって自分を開いていく。そうした心の在り方、考え方の在り方がすでに知性といえる。自己中心的な思考から離れ、全体をみて、新しい価値の生成に貢献する。こうしたチーム学習への参画の仕方は、練習によって培われ、練習によって身につけうる明確な「技」である。

高度化し、複雑化し続けるビジネスをはじめとした様々な領域において、チーム学習を成立させるメンバーたりうること、そして、ファシリテーター（進行管理者）としてチームを導く能力を持つこと。こうした能力を持つことが皆に求められるようになっている。コミュニケーション力一つとっても、現代人は高度で複雑なコミュニケーション力を求められている。ビジネスメールを一日に何十件も処理するのが仕事では当たり前になっている。相当なストレスをとまなう緊張感の中で、速く正確な対応が求められる時代なのである。

『新しい学力』（齋藤孝著 岩波新書 2016）より抜粋

2 バズセッションを体験してみよう

1. 活動のねらい

○少人数のグループで自由に発言できる雰囲気体験する。

○他者の意見を否定しないルールを通じ、心理的安全性を確保しながら多様なアイデアを出す。

○短時間の制限を設け、緊張感を持って本当に大切なことだけを発言する習慣を身につける。

2. 準備：テーマの設定

あらかじめ、参加者が共通して議論できるテーマを1つ用意します。

・テーマ例：「AI（人工知能）の研究や利用に何らかの制限を加えるべきか」

「電車における優先席は廃止すべきか」

3. グループ編成と役割決め（約5分）

・グループ編成：1グループ6人前後で構成します。

・役割分担：

・リーダー：誰もが気兼ねなく意見を言える雰囲気を作り、批判的な意見が出ないように管理します。

・書記役：出された意見を自分の言葉でまとめず、発言者の言葉をそのまま記録します。

・代表者：最後に全体で発表を行う役割です。

4. セッションの実施（厳守：6分間）

バズセッションの最大の特徴は、短い制限時間です。今回は6分とします。

・発言ルール：1人あたりの発言は30秒から1分以内を目安にします。

他者の意見を否定・批判することは禁止です。

「ハチの羽音（バズ）」のような、活気あるガヤガヤとした雰囲気を目指します。

・進行：時間を正確に計り、オーバーしないように進行することで、効率的な協議を行います。

5. 発表と全体共有（約7分）

・グループ発表：各グループの代表者が、討議の概要を全体に発表します。（各班1分程度）

・ポイント：発表者は意見を一つに集約・統合する必要はありません。どのような意見が出たかをありのままに共有します。

・共通理解：全グループの発表後、出てきた多様な見解をもとにテーマに対する理解を深めます。

成功のためのポイント

・身体全体で聞く姿勢：相手の考えを理解しようとする「聞く構え」が重要です。身体を話し手の方に向け、相槌を打つなど、身体が他者に対して開かれている状態にすることで場が活性化します。

・「気づき」の重視：議論で勝つことではなく、対話を通じて「何がわかっていて、何がわからないのか」を明確にし、新しい気づきを共有するクリエイティブな関係を目指します。

・心理的圧迫の解消：少人数で行い、「否定されない」という取り決めを徹底することで、普段受動的な参加者も積極的に発言しやすくなります。

教師用資料6章 ディスカッション【授業デザイン】

今回の授業の位置づけ

○探究活動(課題設定→情報収集→分析と整理→まとめ・表現)のいかなる場面においても、仲間との話し合い(ディスカッション)は欠かせない。他者の考えを傾聴して受け入れ、自分の考えを明確に表現する。論理性を追求しながらも感情的にならず、和やかな雰囲気を保つことも大切だ。この授業では、バズセッションを実際に行うことを通じて、ディスカッションの基本的姿勢を学ぶ。

ねらい

- ディスカッションの主な形態と特徴を理解する。
- ディスカッションのポイントと対話の重要性を認識する。
- バズセッションの実践を通じて、意見を出し合う中でさらに新しい考えを引き出す。

※6 人のグループをあらかじめ作っておいてください。(クラス状況によっては 5 人のグループも可です)

時間	内容・留意点
【準備】 (6 分)	「1(1)主な形態と特徴 (2)ディスカッションの意義」についての動画を視聴する。 ※「ディスカッションのさまざまな形態に共通する意義や取り組む姿勢を理解してください。」と指示してください。 ※誤字等がありますが、内容については配付資料で補ってください。
【課題1】 【ワーク1】 (15 分)	実際におこなうバズセッションの準備 ①役割を決めてバズセッションを開始する。1分+バズセッション6分 ※テーマ例を参考に、各クラスでテーマを 1 つ設定してください。 特に思い浮かばなければ、テーマ例のいずれかでも構いません。 ※6 分間の開始と終了を指示してください。スクールタイマー等を使用。 ※「発言ルール」をよく確認するよう伝えてください。 ②グループでの話し合いを全体に発表する。(各班1分程度)7 分
振り返り (4 分)	Classi アンケートに回答する